The Japanese Society for Planetary Sciences

編集後記

「スターウォーズ・エピソードII クローンの攻撃」みなさんはご覧になったでしょうか．現在こうして惑星科学の研究をしているのは，6才のときにスターウォーズを見て衝撃を受けたのが動機とも言えなくない私も先日見に行ってきました．以前の三部作では主として模型を用いて特殊撮影が行われていましたが，今回は前作「ファントム・メナス」に増してCGが多用されていました．

20年ほど前に読んだ雑誌の記事の中で監督のジョージ・ルーカスは，将来はCGで特殊撮影を行いたいと言っていました．その当時私はプラモデルを作るのが大好きでしたので，何いってんだそりゃ，特撮はやっぱり模型でなきゃ，という風に受け取っていました．

しかし映画をご覧になった方はご存じなように，本作ではCGとは思えない画像が満載されています．兵隊の動き，小惑星の破壊などとてもリアルに見えます．これには有限要素法など，我々も研究で用いるような高度な技術が多用されています．

ジョージ・ルーカスは映画「ジュラシック・パーク」(1995年)のCGを見て新たに三部作を製作することを決意したそうです(日経サイエンス2002年9月号)．20年以上前から監督の頭の中にはCGで表現したい絵があったのでしょう．コンピュータの高速度化にともないCGの技術が発展し，やっと実現できる環境が整ったわけです．この一例を見ると，我々が行いたいと考えている研究テーマの中にも，それが先進的すぎて現在の技術では実現が難しいものも含まれているかもしれません．構想をあたためつつその時がくるのを待つのも一つの策かと思います．しかし単なる勉強不足でその技術を単に知らず，しばらく時間がたってから気が付くと言う場合が私の場合はほとんどです．私には「フォース」の修行がまだまだ足らないようです．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

編集委員

井田 茂［編集長］　城野 信一［編集幹事］

荒川 政彦　飯島 祐一　加藤 工　北島富美雄　倉本 圭　小林 直樹　高木 靖彦　高田 淑子

田近 英一　出村 裕英　中村 智樹　中村 良介　平田 岳史　松島 弘一　米田成一　渡部 潤一

2002年9月25日発行

日本惑星科学会誌　遊・星・人　第11巻　第3号

定　価　一部　1,750円（送料含む）

編集人　井田 茂（日本惑星科学会編集専門委員会委員長）

〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学大学院理工学研究科
地球惑星科学専攻

印刷所　〒135-0011 東京都江東区扇橋3-5-10 星光社

発行所　〒107-0052 東京都港区赤坂4-1-32 赤坂ビル2階
株式会社イーサイド 登録センター内 日本惑星科学会
e-mail：staff@wakusei.jp
TEL：03-3585-8161／FAX：03-3585-8162
（連絡はできる限り電子メールをお使いいただきますようご協力お願いいたします）

本誌に掲載された寄稿等の著作権は日本惑星科学会が所有しています.

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を個人的な使用の目的以外で複写したい方は，著作権者から複写権等の行使の行使の依託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい.

著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は，直接日本惑星科学会へご連絡下さい.

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会
TEL: 03-3475-5618, FAX: 03-3475-5619
E-mail: kammori@msh.biglobe.ne.jp

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

地球惑星科学関連学会 連絡会ニュース No.25 (2002年8月)

[1] 2002年合同大会を終えて
[2] 2003年合同大会のお知らせ
[3] IUGG2003年総会の成功に向けて参加支援を
[4] 第13回ゴールドシュミット国際会議 (Goldschmidt2003)日本開催のお知らせ(その2)

2002年合同大会は盛況のうちに終わりました．2003年度には合同大会のほかに，IUGG総会やゴールドシュミット国際会議の日本開催が予定されています．今号ではこれらのお知らせも掲載します．

[1]2002年合同大会を終えて

1．総括

2002年合同大会 実行委員長　木村 学

皆様の御協力により，2002年地球惑星科学合同大会も成功裡に終わりました．大会実行委員会を代表して，参加者及び関連学会の皆様に深く感謝申し上げます．

さて，本年度の大会は「地球惑星科学合同大会運営機構」によって組織・運営された2回目の大会であり，1990年以来，13回目の大会でした．運営機構方式によって合同大会発展の素地が築かれ，後に具体的に示されるように共催・協賛学会，後援団体，参加者数，論文投稿数，団体展示数等すべてに渡って昨年度を大きく上回ることができました．この大会の発展を反映して，これまでの会場ではすでに手狭になっていることを多くの参加者は感じていることと思います．これらの発展は単に数だけの問題ではありません．地球惑星科学の多様な分野で科学の最先端を担う多くのセッションが活発であったことや多くの若い研究者，院生学生の参加があったことも地球惑星科学の更成る発展を予見させるものでした．また，恒例となった青少年向けのセミナーには多くの高校生，一般市民が参加し，近年叫ばれている「理科ばなれ」を一掃するような熱い息吹を感じさせるものでありました．それらの参加者の多くがWebSiteで企画を知り応募して来たことに見られるように「新世代」の中に着実なメッセージを送る大会でもありました．

運営機構方式による継続的運営の蓄積は大会参加者による御意見を着実に大会の改善に結び付け，大会発展の土台を作るものであることが明確となった大会でありました．しかし，この運営機構はあくまでもボランティア団体であり，参加者の皆様の引き続く御協力なくして一歩も前へ進むことはできません．全ての皆様に改めて感謝申し上げますと共に，2003年度においても引き続き積極的参加をお願い申し上げます．

<大会概要>

会期：2002年5月27日(月)-31日(金)
　　(5月26日(日)青少年セミナー)
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

●共催・協賛学会数19学会
●後援団体20団体
●参加者数2792名
　事前参加登録者数2278名
　(一般1328名，学生646名，一日券304名)
　当日参加登録者数385名(一般/学生222名，一日券163名)
　見学学部生110名，シニア(70歳以上)19名
●論文投稿数2015件
●セッション数86件(ユニオン：3，レギュラー：51，スペシャル：32)
●会場数34
●アルバイト延べ230名
●団体展示18団体(20ブース)
●書籍・出版団体展示6団体

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

共立出版，古今書院，日本地質学会，東京大学出版会，朝倉書店，島津インターナショナル

●会合70会合

●取材プレス数21社

2．企画局報告

2002年担当責任者　大村 善治

今年の企画局の主な活動としては昨年同様，「青少年向けセミナー」「団体展示」の企画・広報活動に加え，関連団体へ合同大会「後援」を依頼，及びユニオンセッションの企画・開催のサポートを行った．

＜後援＞

更に裾野を広げ，より充実し確固たる大会への発展を目指し，関連が深いと思われる団体へ大会の「後援」という形のバックアップを依頼した．「後援」内容は次の3点である．①経済的負担は求めない．②後援者としてポスター，プログラム，ホームページに団体名の記載．③（可能な限りで）団体展示への出展依頼．官公庁・特殊法人・財団法人などの研究機関40ほどへDMでお願いをしたところ，20団体が快くお受けいただき，1月の参加，投稿受付時にWEB上で公開した．結果として，多くの参加者を得て2002年大会を大いに盛り上げることができた．

＜後援団体一覧＞

日本学術会議
国土交通省海上保安庁水路部
国土交通省気象庁気象研究所
国土交通省気象庁地磁気観測所
文部科学省宇宙科学研究所
文部科学省国立極地研究所
文部科学省国立天文台
文部科学省統計数理研究所
独立行政法人国立科学博物館
独立行政法人国立環境研究所大気圏環境研究領域
独立行政法人建築研究所
独立行政法人産業技術総合研究所
独立行政法人通信総合研究所
独立行政法人農業工学研究所
独立行政法人物質・材料研究機構
独立行政法人防災科学技術研究所
宇宙開発事業団
金属鉱業事業団
海洋科学技術センター
核燃料サイクル開発機構東濃地科学センター

＜青少年向けセミナー＞

「再び月へ」―宇宙開発と宇宙科学―
5月26日(日) 13:30-17:00，C417（以下講演順）

・「日本発→宇宙行き－ロケット開発から得たもの－」
福添森康（宇宙開発事業団）

・「SELENE計画－月への挑戦－」
滝澤悦貞（宇宙開発事業団）

・「月のサイエンス－わが国の月探査の目指すもの」
水谷仁（宇宙科学研究所）

合同大会恒例の公開企画である．次世代を担う中高校生・一般の方々を対象に第一線の研究者に，最新の情報・理論を分かりやすく解説していただいた．

参加者は約200名．年齢層は10・20代で半数をしめた．休日，高校の先生が生徒を引率して参加という風景も見られ，本来の趣旨である「青少年向け」セミナーが実現できたようだった．

今回開催にあたり改善した点は，事前に参加者申込受付（事前申込数211名）をして，予め人数の把握を可能にしたことである．これは，参加者の集計，応対に多少時間を費やすことになったが，全体的にみて効率の良い広報活動に役立った．

当日参加者へ今年もアンケートを配布した．回答数147名．講演内容については，大変好評であった半面，事前か当日に内容についての印刷プログラム，資料配布などの要望があった．講師選定とともに，検討課題としたい．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

＜主なスケジュール＞

11月	講師選定開始
01月	講師・テーマ決定，広報活動開始(HP掲載)，ポスター製作
02-05月	広報活動，学校関連へポスター・案内書送付，マスコミ広報依頼等
04月	当日参加者受付・集計

＜団体展示＞

大会開催中，全期間を通じて利用できる，この研究分野にまつわる包括的情報発信の場を目指して，設けている展示ブースで，18団体20ブースの申込があった．募集は10月より開始し，全出展者が決定したのは3月初めであった．応募の出足は悪かったが，最終的にはキャンセル待ちが発生した．出展料が高いという評価があるためコマサイズを小さくして単価を低くおさえる案も出ている．どちらにしても，出展者にとって，今後出展料に見合うだけの効果がみられるよう努力したい．

＜主なスケジュール＞

10月	会場決定，募集要項作成，募集対象絞込み開始
11月	募集・勧誘開始案内DM発送
01月	末日応募一次締切調整，追加募集
02-03月	最終締切出展者決定，出展要綱配布
03-05月	会場準備手配(総務局)へ

＜出展者一覧＞

民間企業

(株)地球科学総合研究所(再)
国際電子工業(株)(再)
(株)近計システム(再)
(有)オプティマ(再)
白山工業(株)(再)
IHIAeroSpace
地熱技術開発(株)

研究団体核燃料サイクル開発機構東濃地科学センター(再)
独立行政法人産業技術総合研究所
地質調査総合センター(再)
海洋科学技術センター／JAMSTEC(再)
財団法人高度情報科学技術研究機構
独立行政法人国立科学博物館
宇宙開発事業団地球観測利用研究センター2ブース
宇宙開発事業団セレーネ計画
通信総合研究所宇宙天気/アラスカプロジェクト2ブース
大学東北大学地学専攻(再)
東北大学惑星プラズマ・大気研究センター
研究グループアーキアン・パーク計画

＜広報活動＞

①ポスター作成・配布

大会，青少年セミナー各200部ずつ作成した．関連専攻のある大学（95），研究機関（20），各新聞社・放送局科学部（20）等へは両ポスターを，会場隣接地区公立中学校，東京・埼玉・神奈川・千葉の高校（160），へ青少年セミナーポスターを郵送し，大会及び青少年セミナーの参加を呼びかけた．今回は，製作を知人のデザイナーに依頼した．広告効果の差異は不明でだが，青少年セミナーのポスターは当日，持ち帰り希望者があったので，会場掲示分を渡した．

②新聞広告

東京，産経，赤旗各新聞で，「青少年セミナー」の広告が掲載された．掲載を依頼した前の週末がワールドカップの選手発表日と重なったためか，取り扱いが少なかった．

③当日の取材記者への対応

事前(ポスター配布時)に，各社へ申込受付方法を連絡し，当日，基本的に前大会通り「取材方法指示書」を受付にて配布．個別対応窓口は企画局長が行

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

った．前年同程度21社だったが，特にトラブルの報告もなかったので，対応方法として妥当だったと思われる．来年の大会も同様な手順で行いたい．

④今後の課題

・青少年セミナーの講師選定は，毎年ではあるが難航し，内容の決定，ポスター作成等のスケジュールも遅れがちである．

・団体展示・書籍出版展示については，昨年の反省から，WEB公開，プログラム掲載に配慮したつもりであったが，やはり，宣伝不足であったことは否定できない．更に，今年は同会場にポスター発表を設けなかったため，見学者が少なかったという出展者の不満が聞かれた．センターからの制限があるためやむをえないが，当日案内(看板含む)も工夫が必要と思われる．出展者，見学者双方にとってより有益に活用できるよう，会場設定，当日の会場案内方法，事前の広告方法等を総務局・プログラム局と共通の課題として再検討したい．

3．プログラム局報告

2002年プログラム委員長　岩森光

2002年大会はセッション数86(1コマ1時間半のセッション総コマ数220)，総投稿数2015(口頭1167，ポスター848)の過去最大規模の大会となりました．セッションコンビーナ，プログラム委員をはじめ，大会に参加された皆様のご協力の賜と厚くお礼を申し上げます．

2002年大会は基本的に昨年の大会の方式を継続すると同時に，企画・参加される皆様の多様なご要望を大会に反映させやすいようにと，いくつかの変更を行いました．一つは，セッションの3つのカテゴリーである「レギュラーセッション」，「スペシャルセッション」および「ユニオンセッション」の性格を明確化し，かつ「ユニオンセッション」提案についても「スペシャルセッション」と同様に公募を行ったことです．3つのカテゴリーの内容は，以下の通りです．

①レギュラーセッション

各分野特有の研究発表の場として5年間程度はセッション名・内容を固定する定番セッション，および複数回の大会にわたり継続性を持たせた方がセッション企画者・発表者・聴衆にとってメリットのあるセッションを，希望調査および昨年度までの実績に基づいて選定いたしました．

②スペシャルセッション

その時々に応じてタイムリーな問題を，学会枠にとらわれずに議論する場として，一般から公募しました．(1)と(2)は，いずれも平均15分／発表程度の口頭発表とポスターから構成されることを想定致しました(全て参加登録費・投稿料が必要)．

③ユニオンセッション

2001年大会では，全学会に共通する話題として，運営機構提案の「21世紀の地球惑星科学」が唯一のUセッションとして行われました．2001年大会では，同セッション以外にも，多くの学会に共通の要素をテーマとした魅力あるセッションが開かれていました．2002年大会では，運営機構提案のUセッションに加え，このようなセッションもUセッションとして公募致しました．1日1セッション程度，全て招待講演(他分野から講演者を招待することを想定して，参加・投稿料は無料)，長い発表時間(公演時間に上限を設けない)を設定いたしました．

もう一つの大きな変更は，ポスターセッション時間帯の変更です．昼から翌日の昼までを貼り出し時間とし，その間の夕方にコアタイムを設けました．最終日(2002年大会は6日目の金曜日)夕方のコアタイムを避けるのが目的でした．このため，ポスターは月曜の昼から金曜の昼までの4サイクルと，各曜日に1ポスターサイクルを設ける場合に比べて減少しましたが，毎日のポスター数を多くとることで，総数848を確保しました(ポスター会場が大きく取れたため可能でした)．

また，各セッションのコマ数割り振りおよび日程配

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

置は，セッション提案時に仮のプログラム日程が組まれた2001年度とは異なり，投稿締め切り後の3月上旬に，投稿数をもとにして行われました．

以上の変更点およびプログラムの編成には，さまざまなご意見が寄せられました．特に，ポスター時間については，最終日のポスターがなくなって良かったというご意見がある一方，従来の時間枠の方が(すなわち，各曜日に1ポスターサイクルを設ける方が)分かりやすくかつやりやすい(ポスター概要の発表の時間が設定しやすい)，というご意見もあります．セッションカテゴリーのさらなる多様化を求める声も聞かれました．これらの点を含め，各学会選出の委員を擁するプログラム委員会において，より良いプログラム・2003年大会の実現を目指して検討を重ねる予定です．

一方，電子投稿・プログラム編成システムに関連し，いろいろな点で行き届かなかった点があったこと，特に，一部の投稿原稿の処理・確認メールに関して関係者にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます．これらの技術的な面に関しましては，プログラム局，情報局が中心となり，さらに改善を目指します．皆様のご理解とご協力を，どうぞよろしくお願い申し上げます．

4．情報局報告

2002年担当責任者　宮本 英昭

合同大会運営機構は独自ドメイン(epsu.jp)を取得しました．これに伴って合同大会のトップページを移動し，今後はこれまでのように毎年ブックマークを更新する必要は無くなりました．また運営機構事務局を通じてより迅速に情報をご提供することが可能となりました．現在も事務局の御尽力によって，より充実したページへと変貌しつつありますので，是非ご利用下さい(http://www.epsu.jp)．

2002年度のwebシステムは，これまで5年間に渡って開発されたシステムをほぼ踏襲した形で運営されました．今年度もwebシステムの使い方などの問い合わせはほとんど無く，無事運用を終了することができました．皆様の深いご理解とご協力に感謝致します．一方で，サーバ上の障害や煩雑な操作性など，いろいろと行き届かなかった点もありました．関係者の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び致します．

昨年度まで使用したwebシステムは，これまでの度重なる改良と昨今のコンピュータ及びネットワーク事情の変化によって，構造的に無駄がありました．そこで2002年度の準備期間に，内部の構造及びプログラム言語を変更致しました．このため今後も安定して運用が行える設計になっていると考えております．webシステム上での大きな変更点は，講演の申し込みを行っている段階で，その原稿のCD-ROMイメージをプレビューできるようになった点です．この機能は試験的な要素を含み，十分な技術的検討が行なえなかったために，一部の投稿者の方々にはご迷惑をお掛けしてしまいました．しかし全体的には，著者順やタイトルの入力間違いの軽減につながり，投稿内容の最終的な校正を行なう上でも有益だったと，概ね好評であったように思います．この機能はサーバに多大な負荷をかけるため，実際の運用に際してどこまで機能を追加すべきか迷う部分もありましたが，今回の経験で問題点をある程度把握することができました．この点も含め，webシステムは来年度以降もさらなる改善に取り組む必要があると考えています．

合同大会のプログラムの編成方法が変更になったことを受け，セッション募集やセッション編成のためのwebシステムも変更致しました．この際プログラム委員の方々のご意見を伺いながら作業を進めましたが，残念ながらオンラインでのプログラム編成システムには，幾つかの不具合が発生してしまいました．プログラム委員の方々やコンビーナの方々には，不具合に個別に対処をして頂くなど，大変ご迷惑をおかけしました．またこうしたオンラインシステムとは別に，オフラインでプログラム局が効率良くセッションの編集が行えるように，セッション編集支援ソフトの開発を情報局で独自に行ないました．

2002年度の大きなトラブルは，1月から3月に集中

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

して発生しました．特に1月にサーバの障害(業務委託した会社のRAIDシステムのクラッシュ)が発生した際は，バックアップも有効に機能せず，投稿して頂いた原稿を一部紛失してしまいました．幸い時期的に件数が少なかったために，該当する全ての方に個別にご連絡を取ることで対処することができましたが，一部の方には投稿を2度お願いするなど多大なご迷惑をおかけしてしまいました．

また，多重投稿や著者順違い，投稿漏れなどの電子投稿上のトラブルを防ぐために，投稿内容を確認するメールの配信を行ないましたが，この一斉メール配信プログラムの不具合により，一部の方に誤った情報をお伝えしてしまい，混乱を招いてしまいました．さらに宿泊申込みの締切り間際に，確認メールの発信が行なわれないという障害も発生してしまいました．これはサーバシステムの容量の監視を怠ったために，ログが更新されなかった事が原因でした．またこの時期は委託業者側もトラブルが続いて混乱し，個人情報の新規登録やパスワード検索におけるメール送信システムが停止したままであったことに気がつかなかったという問題も発生致しました．障害に該当してしまった方々には多大なご迷惑をおかけしました．

こうしたトラブルは管理上の単純な手違いから生じており，今後同様の障害が生じないように業務を委託した会社に強く申し入れました．しかしながら，昨年も類似の障害が発生し強く申し入れを行なっていたことと，本来委託業者が行なうべき膨大なバグの検出や管理ミスによるトラブルへの対応を，事務局が大変なご努力で対処していることは，今後検討すべき問題かと思います．

昨年度に引き続き，かつて情報局で担っていた雑務のほとんどは事務局で処理して頂きました．今年度の情報局の業務は，事務局の方々，歴代の情報化に関った方々，プログラム局の方々の御尽力と御協力無くしては潤滑に運営できなかったことは間違いありません．心より感謝致します．

5．財務局報告

2002年担当責任者　中村 正人

＜収入＞

本年度は2001年に比べ若干参加費を低く設定させていただいた為，より多くの方に参加していただくことが出来ました．参加費による収入は前年より少なくなりましたが，団体展示の収入増加でこれを補っています．繰越金額の増加(合同大会連絡会よりの移算291万円，昨年よりの繰越876万円)により，収入は2001年に比べて約700万円増加しています．

＜支出＞

事務局の人員増による事務能力の向上を図りました．この経費が2001年に比べて大きな伸びを示しています．これに対し，印刷郵送費の削減，事務局備品代の抑制をはかりました．これにより支出は2001年に比べて約120万円の伸びに抑えられました．

上記2項目の差し引きにより，今年は2001年よりも財務状況は改善され，昨年に引き続き収支としても黒字を計上することが出来ました．

＜2003年大会＞

来年度大会へは約1400万円の繰越金をもって臨むことになります．この内791万2038円は合同大会連絡会の準備金です．昨年度，本年度の純粋の黒字積算は約600万円です．

なお，来年度からは(先方の組織改革のため)学術情報センターへの資料提出に対する見返りとしての収入がなくなります．従いまして，収入は約200万円減ることが予想されますが，この収入減に対応して支出の削減(WEBシステムの管理，CD-ROM印刷枚数の抑制など)を図っていきます．2001年，2002年の経緯から見て，大幅な赤字転落は無いものと予想されます．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

＜収入＞	2001実績	2002実績
繰越		¥8,761,816
合同大会連絡会より移算	¥5,000,000	¥2,912,038
学術情報センター資料提出 (2000/2001年度分)	¥1,403,084	¥1,885,773
投稿料	¥4,503,500	¥4,894,000
参加料(事前)	¥14,859,000	¥14,821,000
(当日)	¥5,688,000	¥3,642,000
オリンピックセンター宿泊代 (含事務手数料)	¥4,438,750	¥3,960,200
CD-ROM販売	¥312,000	¥240,000
団体展示	¥2,538,780	¥4,305,000
出版展示	¥370,000	¥268,141
諸学会会場費 (含会合食事代)	¥297,000	¥330,200
保育室利用料	¥58,750	¥80,500
諸収入 (過入金，口座立上金)	¥99,501	¥180,660
利息	¥1,865	¥1,851
学会長懇談会議事録作成費		¥100,000
＜収入計＞	**¥39,570,230**	**¥46,383,179**

＜支出＞		
大会当日費用	¥12,309,968	¥12,212,741
オリンピックセンター会場使用料	¥3,169,000	¥3,274,700
ポスター・団体展示会場設営費	¥1,002,750	¥1,252,755
団体展示会場電気設備工事費	¥336,000	¥321,300
当日機材費用	¥727,650	¥640,500
宿泊施設使用料	¥3,598,600	¥3,605,700
朝食食券代	¥351,330	¥0
アルバイト代・事務局日当	¥2,600,000	¥2,766,000
各学会会合食事代	¥90,000	¥81,000
講師謝金	¥60,000	¥56,760
保育室援助	¥134,638	¥214,026
展示ブース解約返金	¥240,000	¥0
JCOM関連	¥6,723,310	¥6,770,075
受付(人件費，用具)	¥350,000	¥360,000
登録処理経費	¥1,791,000	¥1,799,300
運営管理費	¥1,840,000	¥2,000,000
ホームページ製作費用 (プログラム開発，WEB開発，システム運用管理)	¥3,200,000	¥3,800,000
国立情報学研究所データ処理費用	¥100,000	¥0
展示事務		¥125,000
消費税	¥550,333	¥485,775
値引き	¥-1,108,023	¥-1,800,000
印刷費・郵送費	¥5,393,690	¥4,247,625
プログラム印刷費	¥1,625,000	¥1,453,500
CD-ROM製作費	¥2,775,000	¥1,550,000
封筒印刷費 [請求書,プログラム発送用等]	¥192,000	¥192,000
郵便振込用紙	¥50,400	¥60,450
ネームカード	¥172,250	¥172,250
運営マニュアル	¥2,000	¥3,000
ポスター印刷費	¥126,000	¥297,000
請求書・プログラム・CD-ROM郵送費	¥451,040	¥519,425
運営機構経費	¥6,381,446	¥8,770,177
事務局員給与	¥2,738,650	¥5,520,375
事務局員交通費	¥296,510	¥423,370
事務局員国民保険その他	¥216,500	¥506,200
他局交通費	¥18,860	¥48,960
通信費 (振込手数料，電話代，郵便代)	¥123,813	¥345,195
事務消耗品費	¥395,263	¥302,877
備品代	¥2,374,735	¥1,404,148
その他雑費	¥217,115	¥89,923
連絡会経費		¥94,107
学会長懇談会費(追加)		¥35,022

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

支出小計	¥30,808,414	¥32,000,618
繰越金額	¥8,761,816	¥14,382,561
<支出計>	**¥39,570,230**	**¥46,383,179**
収支	**¥3,761,816**	**¥5,620,745**

6. 総務局報告

2002年担当責任者　岩上 直幹

今年度から使用可能となったカルチャー棟リハーサル室に，ポスター会場の2/3を置いた以外，会場設定が昨年度とほぼ同じだったこともあり，大きなトラブルはなかった．主な中小トラブルは以下のとおり．

(1)センター備え付けPCシステムのトラブル頻発
(2)リハーサル室ポスター会場狭隘，かつ端列外側照明不足
(3)展示会場客足不足
(4)新型PC/OHPプロジェクターでのOHP不鮮明
(5)病人発生

PCプロジェクターの使用増加，およびセンター側設備の老巧化のため，最も頻繁に対応を迫られたのが昨年度と同じく(1)だった．センターには毎年設備の改善を要求してはいるが，反応は鈍い．(5)についてはセンター側から危機管理体制の不備を強く指摘されたため，来年度からは(例えば，学会を単位とした)緊急連絡網の整備を検討中．(2)および(3)については，ポスター会場と展示会場の配置換えおよびカルチャー棟展示コーナーの使用による解決を考えている．(4)は借用した新型プロジェクターの特性の問題で，来年度は旧型に戻すのが無難か．

会期中の総務局(=本部)は多年計画で作業の標準化・分散化を図り，(軽くて簡単な)長期安定形態をめざす．このためには「合同大会を末長く支えていこう」という気概ある人たちのボランティアが必要で，参加者にひろく協力をお願いしたい．

[2]2003年合同大会のお知らせ

1. 概要

●会期：2003年5月19日(月)-22日(木)
●会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
●費用：投稿料，参加費，宿泊費
基本的に2002年大会に準ずる．見学学部生，70歳以上無料．
●各種登録開始・締切日(予定)
講演投稿開始：2003年1月10日(金)
締切：2003年2月14日(金)
事前参加登録開始：2003年1月10日(金)
締切：2003年3月14日(金)
青少年総合センターへの宿泊予約
開始：2003年1月10日(金)
締切：2003年3月14日(金)

2. 「セッション提案」のお知らせ

2003年大会プログラム委員長　原 辰彦

2003年大会プログラム委員長の原辰彦(建築研)です．どうぞよろしくお願い致します．過去2回の大会でセッション区分やプログラム編成スケジュールはほぼ固まってきましたので，2003年大会は基本的にこれを踏襲し，さらに新しい変化に対応していきたいと考えております．より充実した合同大会実現のために皆様の活発なご議論，ご提案をよろしくお願い致します．

[1]プログラム委員会の構成と役割

プログラム委員会についてご説明致します．

(1)プログラム委員会は，各共催学会選出の委員と運営機構プログラム局員から構成される．
(2)プログラム委員会は，提案されたセッションの採択，プログラム日程案の作成を行う(具体的なスケ

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

ジュールは後述).

(3)プログラム委員会は，(2)の作業を行うが，最終的な全体調整はプログラム局幹事会(後述)が中立的な立場から責任を持って行う.

運営機構プログラム局員と学会選出プログラム委員は兼任可能ですが，プログラム局幹事会は中立的な立場を保つため，兼任不可です．プログラム委員，プログラム局員のリストはそれぞれ(http://epsu.jp/より)でご覧になれます.

プログラム局幹事会は2003年プログラム委員長に前年度，次年度のプログラム委員長と，分野のバランスを考えて数名の幹事を加えて，構成します．今年の構成メンバーは，岩森光(東大・理，2002年大会担当)，原辰彦(建築研，2003年大会担当)，吉田尚弘(東工大・総合理工，2004年担当)，小野高幸(東北大理)です．プログラム編成に関する検討事項はプログラム局幹事会で案を立て，プログラム委員会で検討致します.

[2]2003年大会のセッション区分(案)

2003年大会は前回大会を踏襲し，R(レギュラー)，S(スペシャル)，U(ユニオン)の3区分を設けて，プログラム編成を行うことを考えております.

＜Rセッション＞

5年間程度セッション名を固定するレギュラーセッションです．2001年大会で各学会から提案していただいたセッションの他に，レギュラー化を希望され，過去の実績からレギュラー化が適当であるとプログラム委員会が判断したセッションがあります．レギュラー化を希望されるセッションについては，2003年大会でも過去の実績を基にプログラム委員会で検討させていただきます．また，新規参加の学会に対しては，レギュラーセッションをご提案頂く，もしくは合同大会への参加実績を重ねた上でレギュラー化をご検討いただくなどの対応を考えております.

＜Sセッション＞

旬の研究テーマを学会横断的に議論するセッションとして，これまで同様に一般から公募します.

＜Uセッション＞

全学会に関係する話題を取り上げるセッションです．2002年大会では，運営機構提案セッションの他に，公募を行い，3セッションをそれぞれ1日行いました．2003年大会も同じ方針を考えておりますので，皆様の積極的な応募をお待ちしております.

[3]2003年大会プログラム編成スケジュール(案)

2003年大会のプログラム編成日程案を以下に示します.

8月	プログラム委員会再編 Rセッション決定(レギュラー化を希望されたセッションの検討を含む)
9月1日～	Uセッション公募開始
9月中旬～	Sセッション公募開始
9月末	Uセッション採択
10月末	Sセッション公募締切
11月末	Sセッション採択
1月10日	投稿受付開始
2月7日	早期締切
2月14日	投稿締切
2月15日～	セッション日程，プログラム編成
3月10日	投稿者へ日程時間割通知
3月10日～	プログラム最終調整
3月21日	プログラム編成終了
5月18～22日	2003年大会

2003年大会の期間は前回大会と比べて1週間早

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

いので，プログラム編成終了も1週早くしてあります．また，編成期間は前回大会と比べて1週間長く取り，余裕を持たせました．これに伴い，投稿締切は2週早く設定されております．また，会場の都合により，大会開催期間を4日とし，ポスター講演を1日2交代にすることを検討しております．

上記のセッション区分案，プログラム編成スケジュール案などはプログラム委員会で検討し，決定していく予定です．その結果につきましては，プログラム委員および運営機構のウェブサイトを通して，皆様にお知らせいたします．来年の大会に向けて，どうぞよろしくお願い致します．

[3]IUGG2003年総会の成功に向けて参加支援を

IUGG組織委員会事務局　末広 潔
（海洋科学技術センター）

＜はじめに＞

みなさま，IUGG（InternationalUnionofGeodesyandGeophysics：国際測地学・地球物理学連合）総会の第23回目，21世紀最初の総会がアジアで初めて札幌市で開催されます（来年2003年の6月30日～7月11日の2週間）．猛暑を避けて過ごしやすい札幌で「この惑星（ほし）の今―未来への挑戦」（Stateofthe Planet:FrontiersandChallenges；大会統一テーマ）を世界中の研究者と論じあいましょう．歓迎式典は，新しく完成される札幌コンベンションセンターで7月2日夕刻とりおこないます．

いま，開催準備がどこまで進められているかご存じですか？　まず，それをご報告します．そして，これからはみなさま一人一人が総会のホストになっていただきたいのです．なぜ？　と思われる方もいると思いますが，それにもお答えします．

＜準備状況＞

これまでの経緯，プログラムの内容については，ウェブサイト（<http://www.jamstec.go.jp/jamstec-e/iugg/index.html>か<http://www.iugg.org>から飛ぶ）に記されていますので，ぜひご覧ください．ここでは，重要なポイントをお知らせします．まず，6月に閣議決定を受け，日本学術会議と関連16学会との共同主催が決まりました．セッション内容は世界中からの提案により，国際プログラム委員会（西田篤弘委員長）によって確定され，登録，アブストラクトを受けつけ始めていることを，ご存じでしたか？合同大会に参加されているみなさんは慣れていると思いますが，ステップ1としてID番号（IDnumber）をまず，取得していただきます．そして，ステップ2で，登録，アブストラクトの投稿をしてください．このような情報はセカンドサーキュラーに記されておりますが，ウェブサイトにアクセスすれば，すぐに実際にステップを進められます．

＜IUGG総会と日本の関わり＞

IUGGは1919年に創立という伝統を誇りますが，強調すべきことはもっとも広く世界中の研究者を集める大会であると言うことでしょう．地球を構成する国々は様々です．そのいろいろな国々（80カ国以上）からの参加がある，つまり，われわれの住環境でもある地球および他の惑星について考える研究者の集まりとして，最もふさわしいではありませんか？これこそ，最先端の研究成果を持ち寄りシェアしあう場であるべきです．とくに今回は統一テーマを中心に構成7協会のセッションがたくさん用意されました．

日本は，科学の先進国と言ってよいでしょう．しかし，私たちの生み出す成果は，もっともっと世界への貢献として認められてよいはずだと感じておられる方も多いでしょう．われわれのホームで開催されるこの大会はまさにそれを実現させる絶好の機会です．ぜひプログラムをよく検討してください．必ず，みなさまの成果の発表にふさわしいセッションが見つかるでしょう．日本から約100名の研究者がコンビーナーになっていることも心強いことです．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

統一テーマのユニオンセッションは，6テーマあります(予測・予知およびその可能性，火山性島弧の揮発性物質：沈み込むスラブから成層圏まで，地球システムと地球変動，地球物理的災害と人口過密都市の持続力，地球内部の構造とダイナミクス，地球を測る新しいセンサー：何が可能か)．いずれも学際的多面的にテーマを考えるセッションです．また，ユニオンレクチャーには，松野太郎氏，M.Molina氏(ノーベル賞受賞者)，G.Glatzmaier氏，C.Reigber氏が統一テーマに沿って行います．

若手の研究者による地球惑星科学の未来を論じるユニオンセッションもあります．中谷-孫野セッション，萩原シンポジウムと日本の科学者の業績に敬意を払ったセッションもあります．全体は，ユニオンが8，複数協会合同によるものが59，各協会によるものが115という構成です．プログラムのタイトル，内容を読んでいただければわかりますが，グローバルな問題意識を前面に出し，知恵を絞って，問題解決に向かおうとするセッションがほとんどです．これは，今後さらに伸ばしていくべきIUGGの特色と言えるのではないでしょうか？IUGGも広い世界からたくさんの研究者を引きつける魅力が必要です．今回の札幌総会で魅力倍増といきたいものです．

現在，ホスト日本としては，日本学術会議と関連16学会の共同主催の体制で進むことが，これまでの広い議論で決まりました．議論はそれぞれの学会で進行しますので，なかなか全体をつかみにくいかもしれませんが，現実はオール日本で進んでいます．代表の組織委員会は，上田誠也委員長，上出洋介副委員長をはじめ各学会，日本学術会議各研究連絡委員会から推薦を受けて委員が選出されています．みなさまの学会のどなたが組織委員あるいは部会で活躍しているのかぜひ知って，積極的にアドバイス，ご協力などお願いします．各部会の活動はたいへんに重要です．これからますます活動度が上がっていかねばなりませんが，極力無駄を排し，しかし，一体感を高めて協力しあっていきます．

北海道に在住の研究者の方々には，特段のご協力，アドバイスをお願いします．アジア，アフリカ，アメリカ，オセアニア，ヨーロッパからの研究者にぜひ北海道はじめ，日本の自然を見ていただき，交流を深めて将来の研究構想をあたためる機会です．組織委員会では，展示会場において日本の研究機関の活動内容の紹介をプロモートしています．これも国外の研究者，研究機関との交流の芽となるはずです．さらに，この機会を捉えて，札幌市民をはじめ，小学生から一般の方々への啓蒙活動(アウトリーチ)も積極的に推進しようとしており，積極的参加を呼びかけます．

＜資金計画＞

予算計画については，登録料で約60%，残りは，国，自治体などからの補助金，そして寄付金を収入源として，会場費，若手・途上国研究者補助，広報，人件費，その他に充てます．募金委員会は高木章雄委員長以下35名の方々に委員として活動していただいています．国内の経済状況はご承知の通りで困難ですが，みなさまのお口添えがいただけると幸いです．もちろん，参加すること(5000人以上が目標です)が，成功の第一の鍵です．また，参加できない方でも，支援のために寄付を額にかかわらずしていただければ成功へ導くことになります．すなわちスポンサーとしての参加です．それぞれの学会で窓口となる募金担当者がいますので，ご連絡ください．寄付は下記に示します．

＜おわりに＞

この総会の成功へ向けて，広くみなさまの参加を呼びかけます．合同大会を支えている各学会には，主催学会の他にも多くの関連学会がありますが，ぜひ協賛をお願いします．個人のみなさまには，周りの方に声をかけてください．そして，組織委員会，各部会委員あるいは学会の担当委員に積極的にアプローチして，IUGGの成功，さらなる発展をもたら

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

してください．この種の学会はほかにないのです．

重要な日付

IUGG2003ID取得	受付中
アブストラクト受付締切	2003年1月20日(月)
郵便	2003年1月30日（月）
	インターネット
参加補助金申請締切	2003年1月30日(月)
総会開始	2003年6月30日(月)
歓迎式典	2003年7月2日(水)
総会終了	2003年7月11日(金)

寄付について

IUGG総会の運営資金として使われます．特定公益増進法人(課税優遇措置が受けられる)である国際観光振興会(JNTO:大きな国際コンベンションなどを担当)が受付を行っています．寄付金は交付金として主催者に支払われます(JNTO管理費2%余)．連絡は，各学会IUGG募金担当者までお願いします．

[4]第13回ゴールドシュミット国際会議(Goldschmidt2003)日本開催のお知らせ(その2)

―― 特別セッションテーマの募集 ――

会 議 名：第13回ゴールドシュミット国際会議
(Goldschmidt2003)
開催時期：2003年9月7日（日）～12日（金）
開催場所：くらしき作陽大学（倉敷市）
主　　催：TheGeochemicalSociety(国際地球化学会)
TheEuropeanAssociationofGeochemistry
(欧州地球化学連合)
TheMineralogicalSocietyofAmerica
(米国鉱物学会)
日本地球化学会
後　　援：(独立行政法人）産業技術総合研究所
(学校法人）くらしき作陽大学
学協会後援：20学協会（名称略）

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

会議の規模：参加者約800名，発表論文数約650件（口頭およびポスター），特別講演，企業展示，バンケット，エクスカーション

現在FirstCircularを配布中で，ホームページ(http://www.ics-inc.co.jp/gold2003/)でも最新情報を掲載しています．このいずれかで氏名と連絡先を登録していただくと，今後の情報をe-mailでお送りいたします．

ゴールドシュミット国際会議は，一般セッションと特別セッションから構成されますが，現在特別セッションのテーマとコンビーナを募集しています．特別セッションは，ひろく地球化学・宇宙化学に関わる分野から，up-to-dateな課題を取り上げて討論するもので，およそ40テーマを想定しています．研究プロジェクトのまとまった成果発表などもこれに含まれます．特別セッションの企画をお持ちの方は，以下の項目について，2002年10月31日までに，国際プログラム委員会委員または国内プログラム委員会委員にご提案ください．ご提案に際して，所属学会の制限はありません．プログラム委員会委員の名簿は，上記のFirstCircularとホームページに掲載されています．また，プログラム委員会の松田准一委員長(Jun-ichi Matsuda,OsakaUniversity,matsuda@ess.sci.osaka-u.ac.jp)に直接ご連絡いただいてもけっこうです．ご参考までに，今年8月にスイスのダヴォスで開催される第12回ゴールドシュミット国際会議の特別セッションテーマは，http://www.goldschmidt-conference.com/2002/gold2002/でご覧になれます．

(1)特別セッションの表題
(2)セッションの目的と内容の概要(英文で約120ワード)
(3)座長(2名)
(4)基調講演者(複数可，30分講演)
(5)招待講演者(複数可，一般講演と同じく15分講演)
(6)口頭発表とポスター発表のおよその割合
(7)必要なセッションの単位数(セッション1単位は，半日10講演)

＜今後の主なスケジュール ＞

2002年10月31日	特別セッション提案の締め切り
2003年1月	SecondCircularnの発行(website)，論文募集・事前登録開始
5月	講演申込およびAbstractsの締め切り
9月	7～12日第13回GoldschmidtConference(倉敷)

・Website:http://www.ics-inc.co.jp/gold2003/
・E-mail:gold2003@ics-inc.co.jp

第13回ゴールドシュミット国際会議組織委員会
委員長　松久 幸敬

(連絡先)
第13回ゴールドシュミット国際会議組織委員会事務局
〒305-8567つくば市東1-1-1中央第7
産業技術総合研究所 地球科学情報研究部門 富樫 茂子気付
Tel：0298-61-3590，Fax：0298-61-3748
E-mail:s-togashi@aist.go.jp

地球惑星科学関連学会連絡ニュース　第25号

2002年8月6日発行

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

学会誌原稿作成の手引き

日本惑星科学会編集専門委員会

1. 原稿の様式

○はじめの投稿：

委員長宛 ← プリントアウトした原稿2部
[Post Script ファイルでもよい]

○最終稿：

編集幹事宛 ← プリントアウトした原稿2部，テキストファイル（Wordも可）．

それと可能ならば画像ファイル．フォーマットはpict, tiff, epsが望ましい．

・jpeg，gif, psはなるべく避ける．
・ファイル名はローマ字を用いる．
・校正ゲラ送付先の住所，電話番号，ファックス番号，メールアドレスを付記すること．

委員長宛 ← プリントアウトした原稿1部

2. タイトル

記事のタイトルは15字以内．また，タイトル，筆者名及び所属を和文・英文両者で付す．

3. セクション

セクションは1., 2., ...，サブセクションは1.1，1.2，...，細区分は(1)，(2)，...，の記号を頭にして，左寄せ，行末改行とする．

・文中での区分けは(a)，(b)，(c)を用いる．
・これら記号はすべて半角文字を用いる．
・セクションタイトルは12文字以内で簡潔にすること．
・セクションタイトルとして“はじめに”，“おわりに”，“まとめ”は避ける．

4. 述語

専門用語はなるべく避けるか，十分な説明をつける．特に，対応する日本語がある場合，英語・英略語は使わない．

5. 字体

数字，英字は半角とする．また(,)，[,]，:，;など区切り記号も半角を用いる．本文は立体（ローマン），数字はイタリックで組む．

6. 単位

使用単位については特に統一しない．ただし，gcm-3, cms-1などとはせず，g/cm3，cm/s とする．

7. 句読点

句読点は全角の“，”，“．”を用いる．

8. 図，表

文中での図表の引用は“図1”，“図2”の形をとる．最終稿送付に際して，図表，写真の刷り上がりの時の大きさ，位置を朱記指定 のこと．他の文献から図表を転載する場合は予め編集委員会に照会 のこと．

写真投稿のガイドライン：

◇**写真の場合：**なるべくL版サイズ（写真屋で普通に焼いた時のサイズ）かそれ以上の大きさで鮮明なもの．

◇**画像ファイルの場合：**印刷時実寸で350dpi相当以上のもの．フォーマットはpict，tiff，epsが望ましい．jpeg，gif，psはなるべく避ける．jpegは画質がもともと低くなりがちで，gif，psは版組ソフトが認識してくれない場合があるため．

9. 脚注

脚注は“1”などの記号をつける．

10. 文献の引用

引用文献は重要なものに限る．目安として10項目以内にする．

本文中での引用は[1]，[2]の形で通し番号をつけ，論文の末尾に一括してリストを載せる．

文献リストは題名は省略し，3人以上の著者は et al. と表記する．

雑誌名などは一般に使われる略称を用い，ページ数は始めだけでよい．以下の形式に従う．

参考文献

[1] Wakusei, T. et al., 1989, Astron. Astrophys. 220, 293.
[2] 惑星太郎, 1993, 天文月報 86, 186.

11. 原稿の送付先

投稿時の送付先は 編集委員長
〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1
東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻
井田　茂
FAX: 03-5734-3538
e-mail: ida@geo.titech.ac.jp

最終稿の送付先は 編集幹事
〒464-8602 名古屋市千種区不老町 理学部E館気付
名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻
城野 信一
FAX: 052-789-3013
e-mail: sirono@eps.nagoya-u.ac.jp

NII-Electronic Library Service